

鳥獣保護管理政策の現状と 行政上の諸対策について

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室
根上 泰子

2024年7月4日 農作物鳥獣被害防止対策研修

鳥獣保護管理政策の現状と行政上の諸対策について

- 0. はじめに（鳥獣による影響及び鳥獣の現況）
- 1. 鳥獣保護管理法制の体系と沿革
- 2. 抜本的な鳥獣捕獲強化対策と平成26年度法改正
- 3. 改正鳥獣法を踏まえた管理の強化
- 4. 最近のトピック & 情報提供

鳥獣保護管理政策の現状と行政上の諸対策について

0. はじめに（鳥獣による影響及び鳥獣の現況）

1. 鳥獣保護管理法の体系と沿革
2. 抜本的な鳥獣捕獲強化対策と平成26年度法改正
3. 改正鳥獣法を踏まえた管理の強化
4. 最近のトピック & 情報提供

はじめに… 野生鳥獣を取り巻く現況（農作物被害）

○ 野生鳥獣による農作物被害額は**156億円**（令和4年度）。
全体の約7割がシカ、イノシシ、サル。



シカに食害されたダイズ



イノシシによる水稻の踏倒

【出典】「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について」（農林水産省）

主要な野生鳥獣による森林被害面積（令和4年度）
（都道府県からの報告による、民有林及び国有林の被害面積の合計）



はじめに… 野生鳥獣を取り巻く現況（生態系被害）

北岳

2006年

2007年



聖岳

1997年

2007年



写真提供：中部森林管理局元島氏

1年で林床の下層植生が消失

シカが好まない植物ばかりに

1979年

塩見岳

2005年



写真提供：

静岡大学増沢武弘教授

写真提供：

鵜飼一博氏

高山のお花畑が消失

2020年 鳳凰三山・地蔵岳



下層植生が失われ土壌流出

はじめに… ニホンジカの分布域の拡大

※1978年(昭和53)年から2018
(平成30)年の40年間で分布域は、
約2.7倍に拡大

2014(平成26)年から2018(平成
30)年で、
東北、北陸、中国地方を中心
に約1.1倍に拡大。



「全国のニホンジカ及びイノシシの生息分布調査について(環境省)」より

はじめに… イノシシの分布域の拡大

※1978年（昭和53）年から2018（平成30）年の40年間で分布域は、**約1.9倍**に拡大。

2014（平成26）年から2018（平成26）年の3年間で、東北、北陸、関東地方を中心に約1.1倍に拡大。



はじめに… ニホンザルの分布域の拡大

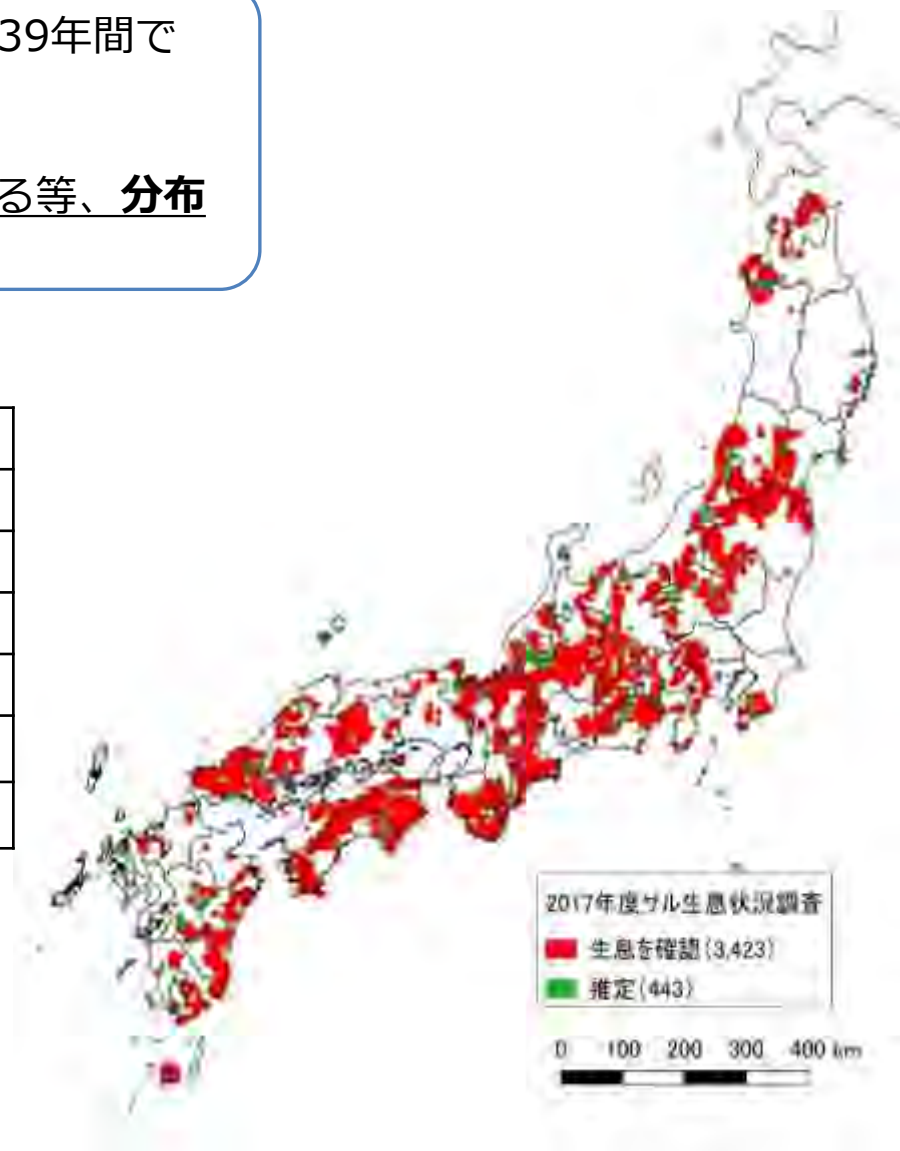
○1978年（昭和53）年から2017（平成29）年の39年間で分布域は、**約1.7倍**に拡大。

○特に、**東北地方で2.3倍、関東地方で1.9倍**になる等、**分布拡大**が顕著。

※ニホンザルの分布メッシュ数

	1978年	2003年	2015年	2017年
確実な生息	2,288	3,471	3,198	3,423
推定生息			493	443
合計	2,288	3,471	3,691	3,866
1978年比		1.517倍	1.613倍	1.690倍
2003年比			1.063倍	1.114倍
2015年比				1.047倍

2003年以降では横ばい傾向

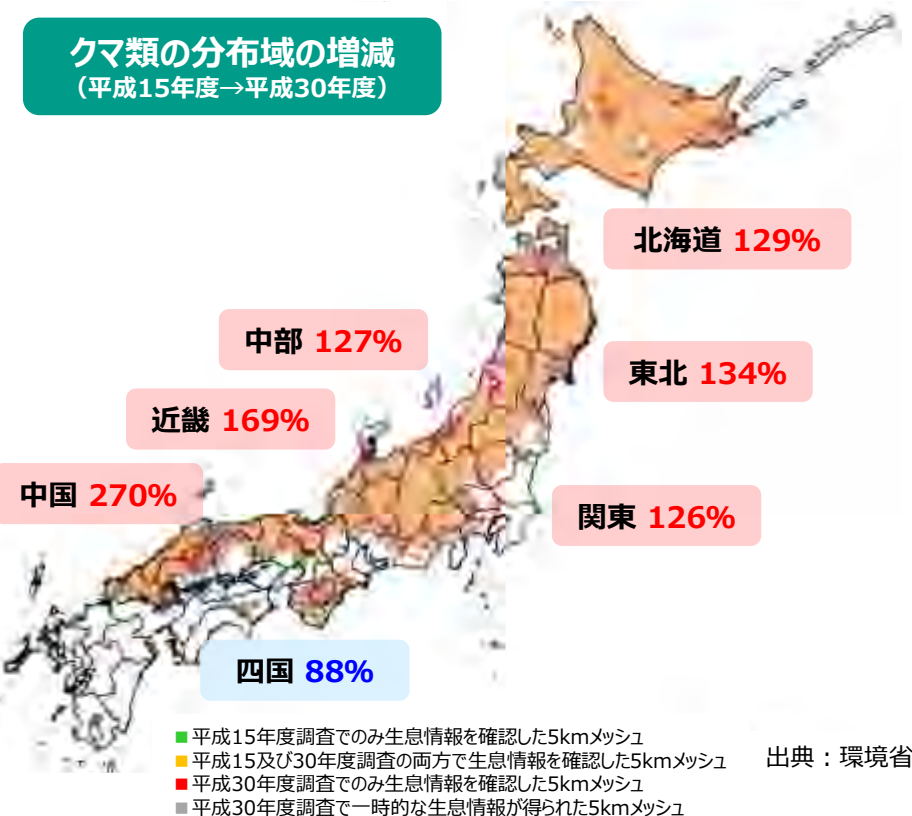


クマ類（ヒグマ・ツキノワグマ）の生息及び被害状況

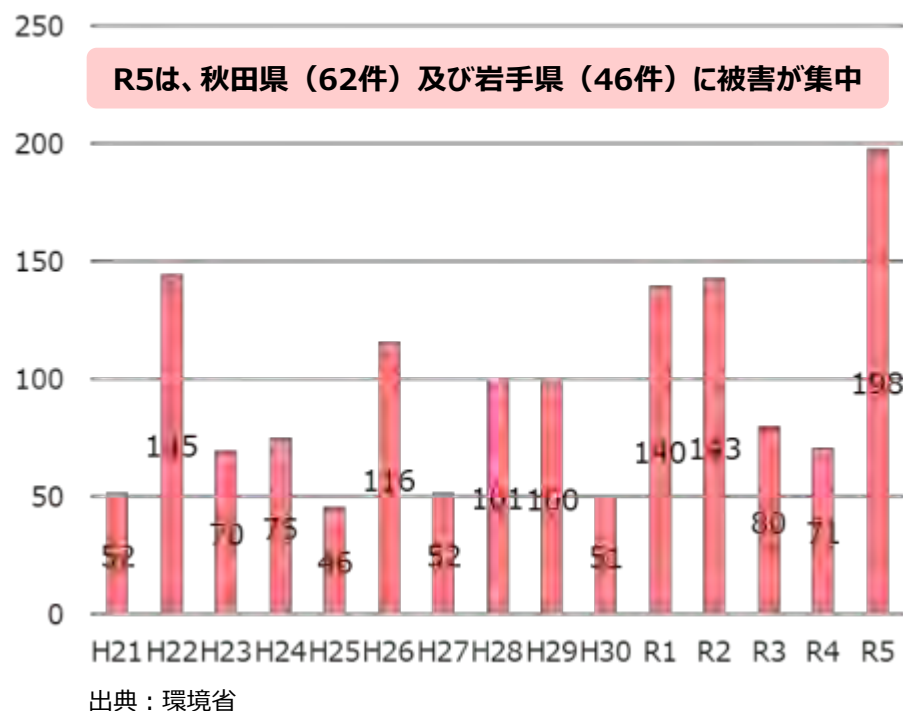


- **ヒグマ**は、平成15年度と30年度の比較で、**分布域は約1.3倍に拡大**。令和2年度の**推定個体数**は11,700頭（中央値）で**30年間で2倍以上に増加**。
- **ツキノワグマ**は、平成15年度と30年度の比較で**分布域は約1.4倍に拡大**。他方、四国は分布域が縮小、九州は絶滅。本州の多くの地域で**推定個体数は増加又は安定化**。
- 人口減少・高齢化等により、**クマ類の分布が人の生活圏周辺まで拡大**する中、令和5年度は、秋の東北の堅果類（どんぐり）の凶作等により、クマ類による**人身被害が過去最多（198件、219人）**を記録。

クマ類の分布域の増減
(平成15年度→平成30年度)



クマ類による人身被害件数



鳥獣保護管理政策の現状と行政上の諸対策について

0. はじめに（鳥獣による影響及び鳥獣の現況）

1. 鳥獣保護管理法の体系と沿革

2. 抜本的な鳥獣捕獲強化対策と平成26年度法改正

3. 改正鳥獣法を踏まえた管理の強化

4. 最近のトピック & 情報提供